

序

当教育研究所は、平成2年度も恒例の事業となっている教育論文集の刊行を企画し、論説の部、実践記録の部に分けて原稿募集をしましたところ、社会教育、学校教育の関係者の方々から13編の原稿をお寄せいただきました。

本年は、論説の部に6編、実践記録の部に7編の応募をいただきました。

論説の部では、いずれも国際化の時代にふさわしいもので、1編は海外研修における体験を「個性を生かす教育」という視点から論じたもので、新しい理念に基づく教育実践が求められている学校現場に多くの示唆を提示しております。また、他の5編は英語教育に関するもので、英語指導助手によるもの2編、英語担当の先生方によるもの3編ですが、特記すべき点は、3人の先生方が英語による論文に挑戦してくれたことです。これらの論文の内容は、英語指導における協同授業のあり方、英語教育にかかわる指導観、弁論大会の指導及び教師自らの参加の経験など、体験に根ざしたものであり、英語教育関係者にとっては、大いに啓発される内容であります。

実践記録につきましては、社会体育の関係者から、全国的に注目をあつめているスポーツクラブ連合の形成の取り組み、及び市民の肥満解消に向けて関連機関が連携し合っての取り組みなど、生涯スポーツの時代にふさわしい貴重な実践記録が紹介されております。また、学校教育では、校内の協力態勢や関係機関との連携を十分な配慮をしつつ登校拒否児童の指導に成功した事例、体験学習の意義やねらいを十分におさえて組織的に展開した宿泊学習を通して子供の自主性・主体性を引き出した事例、子供たちの自発性を尊重しながら先生方のきめ細かな指導により子供たち自ら安全性を確かめ合い積極的に遊べるよう指導した事例、自然とふれ合い体験的に学習課題を解決していく児童の育成をめざした理科・生活科の事例、学校課題の解決をめざしてパソコンを活用した学習指導改善の事例など、いずれも今日的な教育課題に真剣に取り組まれたものであります。

以上、多くの教育関係者の方々から日頃の教育的思索や研究実践の成果を発表していただきましたが、これらの論文は読者の皆さんのが教育観を深める重大な契機となるにちがいありません。したがって、ここに示された貴重な教育論文を、今後とも各教育現場における日々の実践に十分に生かされ、本市教育の発展に寄与されることを期待します。

なお、昨年度に引き続き今年度も、教育論文集第1集から昨年度までに掲載された論文のテーマ及び執筆者一覧を付記しましたので、今後の研究の一助としてご活用いただけたら幸いです。

終りに、論文をお寄せくださった研究者の方々をはじめ、関係の方々にお礼を申し上げるとともに、皆様のますますのご活躍を祈念して序といたします。

平成3年3月

足利市立教育研究所長

間 宵 勉